

平成30年3月13日

足立区立桜花小学校
学校長 芳賀 幸広 様

足立区立桜花小学校 開かれた学校づくり協議会

平成29年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

重点目標とその実現に向けた取組、課題解決の方法等、大変分かりやすくまとめられている。特に重点的な取組事項の基礎学力の定着と学力向上については、一人一人の児童の興味・関心や習熟度に合わせ、きめ細かい取組を展開していることが読み取れた。また体力向上と食育についても、通常の授業に加え、行事の計画的な設定や外部講師の積極的な活用、地域との給食交流会等、学校としての改善や工夫が伝わった。幼保小中連携についても、より関係が深まるように授業研究を中心とした取組を強化しており、今後の教員の授業力向上が大いに期待できるところである。また近年重視されている、児童の言語・読解力向上への取組に関しては、教員の指導力向上とも合わせ、今後もさらに発展・深化させていくよう強く希望するところである。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

学校では、学力や体力の向上のため、区の調査等をもとに様々な対応策を考えているが、新学習指導要領実施に示された目標の達成を目指し、児童一人一人がより積極的に考え、学ぶ姿勢を身に付けられるよう、保護者や地域との連携や協働を強め、家庭や地域の教育力を整備し学校を支援する体制をどう組織していくか、今後もさらに検討していく必要がある。

児童の学力向上を進める中で、学校行事の精選が必要となるが、児童・保護者、地域の希望や願いをふまえつつも適切に進めていく必要がある。

挨拶推進については、教員が積極的に挨拶を励行するとともに、挨拶応援隊、保護者と連携して児童に指導を続けていく必要がある。挨拶応援隊の人数が減少しているので、保護者、地域に呼びかけて増員に努めていく必要がある。

3. その他

学校を取り巻く状況が大きく変わってきている中で、本協議会においては、児童の学力向上、健全育成を目指して様々な取組を行い、課題解決のため、支援を続けてきた。近所付き合い等人間関係が希薄になり、家庭内の挨拶減少や地域行事への参加者減少を危惧する声も聞こえている。学校、地域、保護者、児童相互のコミュニケーションを増やす機会を作るために協議会としてどうかかわっていくか、学校のあり方も含め活発に意見交換を行い、今後、具体策を提示していきたいと考える。